

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
 （総括・分担）研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者 堀内 伊吹 | 長崎大学教育学部 教授

研究要旨

音楽療法により、音声言語の習得速度の向上が期待できることから、難聴小児療育ガイドラインのCQIV-3「音楽療法は音声言語獲得に有効か（またその方法は）」について、人工内耳装用難聴児の音声言語獲得のため音楽療法を推奨する。

A. 研究目的

難聴小児療育ガイドラインのCQIV-3「音楽療法は音声言語獲得に有効か（またその方法は）」について、Answerと解説を作成する。

B. 研究方法

CQに関連する先行研究をSRにより調査し、関連性の高い研究をAbstract tableに要約した。CQチームでこれらの論文を読み込んだ上で、エビデンスレベルを評価し、解説を作成した。

（倫理面への配慮）

先行研究の調査と評価であるため、該当しない。

C. 研究結果

先行研究において、音楽療法により音声言語の習得速度の向上が期待できることが示された。

D. 考察

CI装用者への音楽療法に関する先行研究では、音楽トレーニングを経たグループの音楽知覚の向上のみならず、情動プロソディの知覚、音の高低差の知覚に加え、音声言語の習得速度の向上が示された。本研究課題は未だ先行事例が少なく、最適なトレーニング方法や、実施体制の確立には至っていないが、CI装用者のリハビリテーションプログラムへの追加的な益をもたらす可能性が示唆されている。

このため、人工内耳装用難聴児の音声言語獲得を促すにあたり、音楽療法が推奨される。

E. 結論

人工内耳装用難聴児の音声言語獲得のため、音楽療法を推奨する。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表
特になし

2. 学会発表
特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
特になし

2. 実用新案登録
特になし

3. その他
特になし